



# 東日本大震災から 10年 当時はふりかえる



村内被害の一部

県による環境放射能測定



平成23年3月11日午後2時46分頃に三陸沖(牡鹿半島の東南東約130km付近)の深さ約24km(暫定値)でマグニチュード9.0(暫定値)の地震が発生しました。気象庁発表によると、マグニチュード9.0は、地震の規模としては大正12年の関東大震災(マグニチュード7.9)を上回る日本国内観測史上最大の地震となりました。

この地震により太平洋沿岸を中心に広い範囲で津波が押し寄せ、各地に甚大な被害をもたらしました。

さらに、地震、津波の影響で東京電力第一原子力発電所が事故を起こし、避難指示が出されるなど、原子力発電所周辺の市町村を中心に大混乱となりました。

(当時の広報ひらたより一部抜粋)

避難所の様子



緊急被ばくスクリーニング



原子力発電所事故により中央公民館に避難所を開設、主に広野町の住民300人を超える避難者を受け入れました。

避難児童・生徒へ学用品等贈呈



体育センターに集められた  
救援物資



白鵬関が避難者激励に



## 復興に向けて



チャリティフェスタ

震災から得た教訓を踏まえ、村では平田村国土強靱化地域計画を策定しました。いかなる大規模自然災害が発生した場合でも、致命的な被害を負わない強さと速やかに復旧・復興できるしなやかさを備えた強靱な村づくりを今後も推進していきます。

